

「与那国・自立へのビジョン」政策調査研究会

**自立ビジョン策定にあたっての
政策的認識と重要課題**

提言書

2004年6月

財団法人都市経済研究所

自立ビジョン策定にあたっての政策的認識と重要課題

基本的見解

町制施行（昭和 22 年 12 月）から 57 年、与那国は今、自らの生き方に照らして「島の将来」を決する「歴史的選択」の時期を迎えている。

くしくも、2004 年は、沖縄県特別市町村制の下で八重山村字与那国となった与那国が分村し、「一島一村」の地位を確立した 1914 年（大正 3 年）から 90 年にあたる。われわれは、この与那国が「一島一自治体」の共同体として、自らの離島苦を直視しながら、さまざまな困難に直面した時も島民が力を携え結束して生きてきたという歴史を忘れてはならない。

今般、与那国が置かれている社会的・経済的状況は、極めて厳しい。

終戦直後の台湾貿易で栄えた昭和 22 年前後の 12,000 人余をピークに、島の人口は減少の一途を辿り、平成 2 年にはついに 2,000 人を割り、その後も島外への若年層の流出とともに恒常的な人口減が続いている。

島を支える農業・水産業はいずれも後継者問題に直面し、その生産力・活力の低下等が懸念されている。また、昨今の全国的な公共事業の見直し・削減は、財政依存・公共事業依存が深化した沖縄県経済全般に著しい打撃を与えており、与那国を含む沖縄全域において、持続可能な新しい産業経済構造の構築が求められている。

一方、政府による「三位一体の改革」(… 国から地方への補助金の廃止・削減，国から地方への税源の委譲，地方交付税の削減)が推進される中、与那国町の財政状況はさらに困窮し、町財政の破綻、財政再建団体転落への懸念も逼迫している。

「与那国・自立ビジョン」は、島が直面している厳しい現実を直視しながら、策定されなければならない。

同時に、海洋に屹立するこの与那国には、陸域から海域に連なる美しい自然環境、貴重な固有種を含む動植物の生態系、勇壮な自然の造形や海中遺跡等の独自の景観美があり、また、島の歴史の中で培われた伝統芸能・工芸をはじめとする豊かな文化的資産がある。そして、何よりも、数知れぬ艱難辛苦を克服しながら「国境の島」を守り、生き抜いてきた先人の歴史の記憶とその遺産がある。

本「自立ビジョン」は、与那国固有の資産（自然，歴史，文化，人的資産）を島の自立と新しい将来像の実現に向けた大切な地域資源として活かしながら、新しい島づくりを通じ、次代への継承をめざすものである。

現在、世界規模で進展しているボーダーレス化／グローバル化は、与那国と無縁なものではない。とりわけ、日本を含む東・東南アジア、さらに西太平洋諸国における国際的な交流・連携と相互依存は、経済・政治・安全保障を含む広範な領域でさらに進展・深化するものと考えられる。

その中で、わが国の国境・最西端に位置しながら、台湾まで110km，福州市まで370km，廈門市まで400kmに立地する与那国は、台湾ならびに中国大陆との接点あるいは交流のフロンティアとして独自の役割を担い、新しい地域間交流の拠点となり得るものとする。

本「自立ビジョン」は、「国境の島」としてわが国の国土・領海・経済水域等を守り、国境地域の平和的な安全保障に寄与している与那国を再評価し、かつ、東アジアにおける新たな地域間交流をも展望しながら、与那国の新しい将来象を提起するものである。

「自立ビジョン」の策定にあたっては、以下の三つの視座を立脚点に検討を進めるものとする。

- 一．今日に至る「一島一自治体」としての与那国の歩みに思いを致しながら、人口の減少，地域産業の活力低下，財政運営の逼迫など、島が直面する厳しい現実を直視し、与那国の自立へのビジョンと新しい将来像を展望する。
- 一．日本最西端に位置する孤島としての立地性，陸域から海域に連なる貴重な自然・生態系と景観等の観光資源，島固有の歴史的・文化的資産等を持続可能な発展のための貴重な地域資源と捉え、次代への継承とともに自立的発展への方策を探る。
- 一．「国境の島」としてわが国の国土・領海・経済水域等を守り、国境地域の平和的な安全保障に寄与している与那国を再評価するとともに、隣接する台湾や中国大陆との交流のフロンティアとして、新たな地域間交流の拠点としてのあり方（与那国の新しい将来像）を提起する。

最後に、本「自立ビジョン」は、「**国境の島**」として国土・領海・経済水域の保全など日本の「国益」に寄与している与那国町として、「国策への問題提起」「国境の国土としての自己主張／政策アピール」を図るべきものとする。

過去、わが国最西端に位置する与那国に関して、「国境地域の衰退をもたらす国土・防衛政策上のリスク／危機」等の問題が、政府当局において国策として十分に論議されてきたとは言い難い。

しかしながら、この与那国が、国境地域における安全保障に関して平和的な役割を担っていること、また、わが国国土政策ならびに防衛政策上、重要な位置にあることは厳然たる事実である。

従って、ビジョンの策定にあたっては、従前の離島振興策や条件不利地域に対する支援策にとどまらず、「**国境地域への特別措置**」を含む政策導入ニーズを多角的に検討し、定住支援の拡充等を図ることが戦略的課題と考えられる。

また、隣接する台湾との交流など「国境地域の平和的安全保障」に寄与してきた与那国の実績や拠点性をふまえ、台湾ならびに中国大陸との交流フロンティアの役割を担う「**新たな地域間交流の拠点**」としての将来像を提起することが期待される。

以上が「自立ビジョン」策定にあたっての基本的見解である。

与那国・自立プロジェクト推進への重要課題

政策的視点からの整理

与那国町における重要政策課題の再整理

検討事項(案)

- ・人口減少と定住促進の課題・方策
- ・町財政の現状と行財政改革の推進
- ・産業（分野別）の現況と重点的振興策
- ・社会資本整備の現況と戦略的インフラ形成の課題（…光ケーブル延伸等）
- ・広域行政の課題と問題点（…市町村合併，広域連合，都道府県改革等）
- ・「一島一町」の自治体・共同体としての課題（…自治基本条例等）
- ・その他町政の重要課題について

「持続可能な地域社会」形成への課題と方策

検討事項(案)

- ・次代に継承すべき地域資源の再評価（…自然資産，歴史・文化資産等）
- ・自然環境の保全に係る政策的課題（…陸域から海域への生態系等）
- ・地域資源を活用した産業振興方策（…観光，フィルムコミッション等）
『ドクター・コトー』，『老人と海』等による PR / 活性化効果の検証 等
- ・「与那国型ライフスタイル」について（…スローライフ，Q.O.L.）
- ・自然再生型公共事業のあり方（…「自然再生推進法」の適用等）
- ・自然環境と共生する農業・農法のあり方
- ・与那国版「地域再生計画」の検討（…「地域再生交付金」等制度導入）
- ・その他「持続可能な地域社会」形成への課題と方策

「国境の島」としての与那国の再評価と政策導入について

検討事項(案)

- ・与那国から見た領空・領海の保全・保安の現状（…防空識別圏問題を含む）
- ・与那国近海における国境・領土問題の現実と経緯（…軍事演習問題を含む）
- ・与那国島により確保されるわが国経済水域の範囲等について
- ・台湾（花蓮市等）との国際交流の歴史的経緯と実績について
- ・国境地域の衰退がもたらす国土・防衛政策上のリスク／危機について
- ・国境地域の離島定住者が担っている国益確保の役割
- ・国策への問題提起：
 - 一．国境の島・与那国の役割と拠点的重要性の再評価
 - 一．国境地域への特別措置あるいは特定支援策のあり方
（…「国境地域定住等特別支援事業(仮称)」等）
従前の条件不利地域支援策の検証を含む。例）「中山間地域等直接支払い制度」

21 世紀・与那国の新しい将来像と自立への戦略

検討事項(案)

- ・わが国最西端の海洋交流拠点としての将来像：
 - 一．八重山広域連合の拠点都市としての将来像
 - 一．台湾・中国大陸沿岸との交流フロンティアの役割を担う
新たな地域間交流の拠点としての将来像
- ・「国境交流特別区」の実現に向けた戦略的方策の検討
（…構造改革特区・国境離島型開港 台湾との自由往来・自由貿易圏）
- ・光ケーブルの延伸・活用による孤島苦の克服と地域振興
（…情報・産業・医療・文化等）
- ・「保健・医療・福祉」三位一体の情報システムの構築
- ・観光交流の促進など新たな戦略プロジェクト・事業の立案および推進
- ・新しい島づくりへの「官民協働」型事業手法の導入（…PPP / PFI）